

---

 ニ ュ ー ス
 

---

## 日本の火山活動概況（2012年11月～12月）

気 象 庁

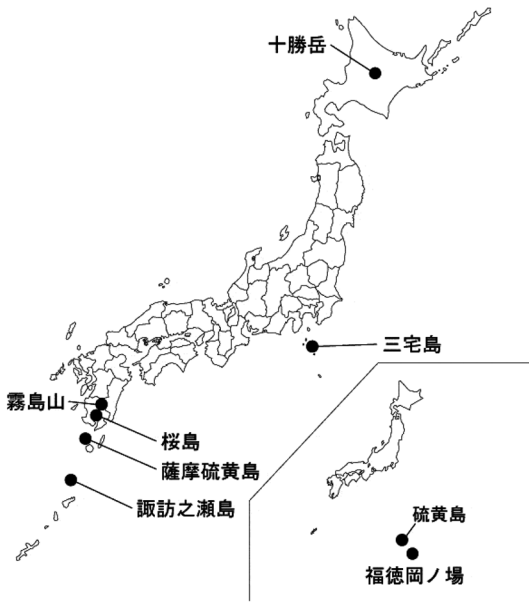


図 1. 2012 年 11 月～12 月に目立った活動があった火山

**十勝岳 (43° 25′ 05″ N, 142° 41′ 11″ E)**

大正火口の噴煙の高さは火口上 100m 以下で、62-2 火口の噴煙の高さは火口縁上 100m 以下で経過した。

12 月 2 日昼前から夜にかけてグラウンド火口の東側の深さ 1km 程度を震源とする地震が一時的に増加した。同日 13 時 37 分と 13 時 49 分には、それぞれマグニチュード 2.8 と 2.0 の地震が発生した。この 2 つの地震は現地では震度 1 に相当する揺れがあったものと推定される（美瑛町の報告及び気象台の聞き取り調査による）。また、27 日夜から 28 日未明にかけて 62-2 火口付近浅部を震源とする規模の小さな地震が一時的に増加した。地震増加時に噴煙の状況や地殻変動に特段の変化はなかった。

**三宅島 (34° 05′ 37″ N, 139° 31′ 34″ E)**

噴煙高度は火口縁上 100～300m で経過した。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中 3 回実施）では、二酸化硫黄放出量は 1 日あたり 400～600 トン（前期間：500～700 トン）と、やや多量の火山ガス放出が続いた。三宅村の火山ガス濃度観測によ

ると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測された。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、やや少ない～少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS 連続観測では、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続した。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

**硫黄島 (24° 45′ 02″ N, 141° 17′ 21″ E (摺鉢山))**

地震活動は静穏に経過した。11 月と 12 月に火山性微動がそれぞれ 1 回発生した。11 月に発生した火山性微動は継続時間が 70 秒程度の短いものであったが、12 月に発生した火山性微動は継続時間が 21 分程度で振幅もやや大きいものであった。火山性微動の発生前後で火山性地震の増加や空振、噴煙の状況に特段の変化はなかった。国土地理院の地殻変動観測では、地殻変動はほぼ停滞している。

島西部の阿蘇台陥没孔の噴気は 0m～100m と少ない状態で経過した。島西部の井戸ヶ浜では噴気は認められなかった。

**福德岡ノ場 (24° 17.1′ N, 141° 28.9′ E)**

12 月 11 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる半径約 500m の薄緑色の変色水が確認された。これらの機関のこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

**霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″ N, 130° 53′ 11″ E (新燃岳))**

新燃岳では、今期間、噴火の発生はなかった。白色の噴煙が火口縁上 50m 以下で経過した。

火山性地震の月回数は 11 月が 40 回、12 月が 25 回と少ない状態で経過した。火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は 2011 年 12 月以降鈍化・停滞している。「えびの」-「牧園」、 「牧園」-「都城 2」の基線で、5 月頃からわずかに縮みの傾向が見られていたが、9 月頃か

ら停滞している。

11月8日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施した。前回(9月14日)の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状や火口内の噴気の状態に変化は認められなかった。火口内に蓄積された溶岩の北側から東側及び南側に複数の噴気孔がみられ、火口内にとどまる程度のごく少量の白色の噴煙が主に北側と東側から上がっていた。また、溶岩には複数の水たまりを確認した。赤外熱映像装置による観測では、噴気がみられる部分や火口内に蓄積された溶岩の縁辺部(特に南側)が比較的高温であった。西側斜面の割れ目では、噴気は確認できなかったが、赤外熱映像装置による観測では、前回の調査と同様にやや温度の高い部分が認められた。

### 桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は11月が71回(そのうち爆発的噴火は61回)、12月は55回(そのうち爆発的噴火は43回)であった。大きな噴石が3回目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達する爆発的噴火が、11月に7回、12月に2回発生した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、12月2日にごく小規模と推定される爆発的噴火が発生し、ごく小規模な噴火も時々発生した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中6回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,200~2,200トンとやや多い~多い状態であった。

有村観測坑道の水筒傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年2月以降、山体の変動は停滞していたが、8月頃からわずかに沈降している。

GPS連続観測では、2011年9月頃から桜島内のわずかな伸びの傾向が続いていたが、2012年10月頃からわずかな縮みの傾向となっている。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、10月は30万トンで、11月は50万トンであった。2012年1月から11月までの総降灰量は610万トンであった(2011年の年間総降灰量は450万トン)。

12月26日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口か

らは灰白色の噴煙が南岳山頂火口からは白色の噴煙が南東へ流れていた。火口内は噴煙のため詳細は不明だったが、赤外熱映像装置による観測では、噴煙の放出部分が周囲より高温となっていた。

### 薩摩硫黄島 (30° 47' 35" N, 130° 18' 19" E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口では白色の噴煙が、最高で火口縁上400mまで上がった。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

11月17日から20日にかけて実施した現地調査では、前回の調査と比較して硫黄岳北斜面から西斜面にかけての噴気の状態や、地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

11月25日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測や、12月26日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口及び周辺の噴煙活動の状態や地表面温度分布に特段の変化はなかった。また、周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認された。

### 諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、噴火が時々発生した。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。9月28日以降、火山性微動がほぼ連続して発生している。火山性微動の継続時間の月合計は11月が720時間で、12月が622時間23分であった。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

12月26日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、御岳火口底の中央部で赤熱した溶岩が認められ、地表面温度分布にも高温領域が認められた。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責:気象庁地震火山部火山課 末峯 宏一)

○人事公募

【東海大学理学部化学科】

1. 公募職種：特定研究員（PD）
2. 勤務地：神奈川県平塚市北金目4-1-1  
東海大学理学部化学科17号館
3. 着任日：平成25年4月1日
4. 契約期間：単年契約，更新可能，最長で平成28年3月末まで
5. 研究内容：火口湖に関連する分野
6. 採用人数：1名
7. 待遇：月給約35万円（交通費を含む）
8. 資格条件：

- a. 着任時に博士の学位を有すること
- b. 研究機器の運用管理を行うこと
- c. カメルーンに出張し野外調査に参加できること
- d. 研究プロジェクトの全般的な支援業務に携わること

\* 過去における火口湖研究業績の有無は問いません

参考 URL：

<http://www3.u-toyama.ac.jp/satreps/index.html>

<http://www.sc.u-tokai.ac.jp/ohbalab/Japanese/index.html>

応募書類：

1. 履歴書：氏名，生年月日，住所，連絡先（電話および e-mail も記載）学歴 高校入学以降の入学年月日，卒業年月日 職歴 資格 賞罰 学会発表を記載
2. 業績目録：査読論文，査読なし論文，学会発表など，博士論文（題目，取得大学，時期を記載）
3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各 A4，1 枚程度）
4. 主要論文 3 編以内

応募方法：

応募書類を以下の住所に，2013 年 2 月 15 日（金）までに送付してください。

書類選考後に面接日をご連絡します。応募書類の返還をご希望の方は，切手を張った返信用の封筒を同封してください。

問い合わせ先：

〒259-1292 平塚市北金目 4-1-1

東海大学理学部化学科 大場 武

電話 0463-58-1211

e-mail：takeshi\_ohba@tokai-u.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 27 日送信しました）

【産業技術総合研究所】

1. 募集人数

産総研ポスドク（イノベーションスクール研修生）  
20 名程度を予定

2. 応募資格

イノベーションスクールの趣旨を理解し，新たなキャリアパスを見通すために，本格研究に関する座学，企業 OJT などのカリキュラムに積極的に取り組んで頂ける方，博士の学位を有する方，または取得見込みの方。雇用開始日において，博士号取得後 7 年以内の方。産総研特別研究員としての雇用歴が 5 年未満の方。研究開発業務の遂行に支障のない健康な方。他と二重雇用とならない方。日本語での講義，演習に支障がない程度に日本語ができる方。平成 25 年 4 月 1 日に着任できる方（応相談）。

3. 雇用期間

1 年間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

4. 選考方法

書類選考および面接試験

5. 提出書類

履歴票，自己アピール表，業績リスト，博士号取得を証明する書類（学位記の写し等）もしくは取得予定証明書，応募票

※証明書以外は，特定の書式があります。

必ず，本イノベーションスクール Web サイトからダウンロードして下さい。

<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/employment/index.html>

6. 応募〆切日

平成 25 年 1 月 20 日（日）メール添付必着

宛先：school-saiyou-ml@aist.go.jp

件名：【イノベーションスクール PD 応募書類】

応募者名

7. 採用期日

平成 25 年 4 月 1 日

8. 書類提出先および問い合わせ先

イノベーションスクール事務局宛にメール添付でお送り下さい。

宛先：school-saiyou-ml@aist.go.jp

件名：【イノベーションスクール PD 応募書類】

応募者名

問い合わせ：（独）産総研イノベーションスクール事務局

電話：029-849-1600（内線：222-41600）

メール：school-saiyou-ml@aist.go.jp

※個人情報に厳重に管理し，審査および採用後の指導に限り使用します。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 10 日送信しました）

## 【静岡大学理学部地球科学科】

1. 職種・人員：助教〔任期なし〕・2名
2. 専門分野：地球科学（本学科の構成員と共同研究できる分野）
3. 応募資格：
  - 1) 博士の学位を有するか本年度中に取得見込みの方
  - 2) 専門教育、共通教育において、地球科学の講義、実験、実習、演習等を担当できる能力を有し、また学生の教育研究指導に熱意のある方
4. 着任時期：平成25年6月1日以降のできるだけ早い時期
5. 応募書類：
  - 1) 履歴書（研究に関連した受賞歴、外部資金の獲得状況、および専門分野を表すキーワードを3つ）
  - 2) これまでの研究・教育活動（2000字程度）
  - 3) 研究業績目録
    - A) 査読のある論文および総説（欧文、和文を分ける）
    - B) その他の論文および総説（欧文、和文を分ける）
    - C) 著書
    - D) その他審査の参考になる事項（任意）
  - 4) 主要論文の別刷り（5編以内）およびそれらの論文概要（日本語各200字程度）
  - 5) 本学に赴任した場合の今後の研究・教育の計画と抱負（2000字程度）
  - 6) 応募者について意見を伺える方2名の氏名および連絡先
6. 応募締切：平成25年2月15日（金）必着
7. 書類の送付先および問合せ先：
 

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836  
 静岡大学理学部地球科学科 学科長 塚越 哲  
 電話：054-238-4800  
 ファックス：054-238-0491  
 電子メール：satukag@ipc.shizuoka.ac.jp  
 「地球科学教員応募」と朱書きして書留郵便でお送りください。

なお、応募書類は返却いたしません。
8. その他：選考段階で、面接または講演をお願いすることがあります。
 

ただし旅費の支給はありません。  
 〈本学科の講座・構成員については、下記HPをご参照ください〉

<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~geo/geo.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月12日送信しました）

## 【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職名・人員：非常勤研究員・若干名
2. 募集専門分野：地震学・火山学・その基礎となる分野（非常勤研究員は地震学・火山学に関する研究を地震、地殻変動、電磁気、津波等の手法を用いて推進する。）
3. 応募資格：
  - (1) 採用時に博士の学位があること
  - (2) 2013年4月1日現在で35歳未満
4. 任用期間：原則として採用日から3年間、ただし契約は1年度毎。
5. 着任時期：2013年4月1日
6. 報酬：学歴によるが月額約30万円（短時間勤務職員として採用するために社会保険関係は適用されません）
7. 研究費：研究員には研究費を手当てします（平成24年度の場合年間約65万円）
8. 応募書類：（応募書類は個人情報保護に留意して取り扱いいます。返却は致しません。）
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧（査読つき論文、査読なし論文、その他、著書、報告書等で特に参考になるもの等）
  - (3) 研究の計画と抱負（A4紙1枚程度）
9. 応募の締め切り：2013年1月28日（月）必着
10. 書類の提出先および問合せ先
 

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目  
 北海道大学大学院理学研究院  
 附属地震火山研究観測センター  
 谷岡勇市郎  
 TEL：011-706-2643（代表）/ FAX：011-746-7404（代表）  
 Email：tanioka@mail.sci.hokudai.ac.jp  
 （「非常勤研究員応募書類」と朱書の上、書留にて送付してください。）
11. 当センターの概要は以下のホームページをご覧ください。
 

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/isv/>  
 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月27日送信しました）

## 【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

- 職 種：研究員（研究機関）（時間雇用教職員）  
 募集人員：1～2名  
 勤務場所：附属地球熱学研究施設（大分県別府市）又は火山研究センター（熊本県阿蘇郡）  
 応募資格：着任の時点で、博士学位を有すること。  
 研究分野：本施設の研究者と協力して、施設が行ってい



る研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等 (<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>) を参照のこと。

なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。

適任者が見出せない場合は、施設長 (kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp) と相談すること。

(\*を@に変えてください)

着任時期：平成25年4月1日以降できるだけ早い時期

任 期：平成25年4月1日～平成26年3月31日まで

※以後更新する場合あり、(最大通算3年まで)

勤務形態：週19時間勤務

※土・日曜、祝日、年末年始、創立記念日および夏季休業日を除く

※本学基準に基づき年次休暇を付与

※必要に応じて超過勤務を命じる場合が有ります。

給与・手当等：時間給3,900円 本学支給基準に基づき、通勤手当および超過勤務手当を支給その他の手当、賞与、退職手当は支給しません

社会保険：労災保険に加入

応募方法および必要書類：

- 履歴書 氏名、生年月日、住所、連絡先(電話およびE-Mailも記載) 学歴(高校入学以降の入学年月日、卒業年月日)、職歴、資格、賞罰、学会賞など
- 業績目録 査読論文、査読なし論文、学会発表など(博士号(題目、取得大学、時期も記載))
- 研究の概要および今後の研究の抱負(各A4、1枚程度)
- 主要論文3編以内

応募方法：上記書類をPDFファイル(1,2,3は同一ファイル)で下記応募先に送付すること。

E-Mail : kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp

(\*を@に変えてください)

応募締め切り：平成25年2月13日(水曜日) 必着

問合せ先：

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

火山研究センター 鍵山恒臣

電話 0967-67-0022 (阿蘇) 075-753-3938 (京都分室)

E-Mail : kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp

(\*を@に変えてください)

その他：提出していただいた書類は、採用審査にのみ使用します。正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。

なお、応募書類はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月27日送信しました)

## ○その他の公募

【平成25年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募】

特定非営利活動法人日本火山学会

会長 宇都浩三

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成25年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

- 日本火山学会研究奨励賞 (Young Scientist Award) : 火山学に関する優れた論文を発表し、将来、火山学の発展への貢献が期待される本会会員で、平成25年4月1日で35歳以下の者。(今回の公募対象)
- 日本火山学会賞 (Volcanological Society Award) : 日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体、非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
- 日本火山学会論文賞 (Best Paper Award) : 雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中、火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成25年度の対象論文は前3年(2010-2012年)に出版されたものとします。(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記3賞受賞候補者の選考を行い、理事会において決定します。
- ・本年5月に開催される総会(日本地球惑星科学連合2013年大会)において承認された後、賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。また、それぞれ、受賞対象となった研究課題に関連する論文(レ

ビュー論文)の「火山」への投稿をお願いします。  
推薦の締め切り

平成 25 年 3 月 15 日 (金) 必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち, 1 を電子メールの添付ファイル (MSWord かテキストファイル) として火山学会事務所へ送信下さい。また, 2 がある場合は郵送あるいは pdf ファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は, 必ず subject に「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は, 封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類 (様式は自由であるが, 必ず以下の項目を含むこと)

- (1) 推薦対象の賞名 (学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述)
- (2) 被推薦者氏名, 生年月日, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス, 団体の場合は, 団体名, 連絡先, 代表者名とその連絡先などを記述のこと。
- (3) 被推薦者の学歴, 職歴, 研究歴。団体の場合は活動歴。
- (4) 推薦者氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス, 被推薦者との関係。自薦の場合は, 本人の研究活動を熟知する照会者の氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス (推薦者や照会者は複数であっても構わない)。
- (5) 受賞対象となる研究課題名 (40 字以内)
- (6) 推薦理由

- ・ 1000 字以内で簡潔に推薦の理由, 特に, 被推薦者 (あるいは団体) の研究活動の火山学における重要性 (もしくは評価されるべき点) をできるだけ具体的に記述のこと。
- ・ 研究奨励賞においては, 対象となる論文 (複数可) も明記すること。
- ・ 学会賞においては, 被推薦者 (あるいは団体) の活動に関して, 日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。

(7) 主要な業績のリスト

- ・ 最近のものから通し番号を付して記述する。
- ・ 主な業績については, それぞれ, その内容と火山学的位置づけを 250 字以内で解説すること。

(8) 本人の承諾書

- ・ 他薦の場合は, 被推薦者本人 (あるいは被推薦団体代表者) が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
- ・ 研究奨励賞においては, 本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解 (500

字以内) を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・ 選考のために参考となる客観的資料があれば 1 部ずつ添えること。
- ・ 一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・ 提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第 2 東大前 406 号 日本火山学会事務局

電話 / FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan@khaki.plala.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 高田 亮 (産業技術総合研究所)

Tel : 029-861-3928, Fax : 029-861-3526

e-mail : a-takada@aist.go.jp

選考委員 (各賞選考委員会)

大場 武, 鍵山恒臣, 鈴木佳子, 武尾 実, 中川光弘,  
村上 亮, 山岡耕春

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 16 日送信しました)

【地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集】

1. 三宅賞

対 象 : 地球化学に顕著な業績を挙げた研究者

表彰内容 : 賞状, 副賞として賞牌および賞金 30 万円,  
毎年 1 名

2. 進歩賞

対 象 : 1973 年 4 月 2 日以降に生まれた方で, 地球化学の進歩に優れた業績を挙げ, 将来の発展が期待される研究者

表彰内容 : 賞状および賞金 10 万円, 毎年 1~2 名

3. 応募方法 : 地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に, 略歴・推薦理由・研究業績などを記入し, 主な論文 10 編程度 (三宅賞), 2 編程度 (進歩賞) を添えて, 下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は三宅賞及び進歩賞選考のためのみ用いられます。

4. 締切日 : 2013 年 8 月 31 日 (必着)

\* これまで「奨励賞」として実施してきたが, 2013 年度より「進歩賞」と改める。

地球化学研究協会ホームページ :

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

応募書類送付先 :

〒100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5

三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ

(公益信託) 地球化学研究基金 伊藤幸雄)

問合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします。

E-mail : eitaro1939@yahoo.co.jp

または：t-sagi@m3.gyao.ne.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月5日送信しました)

○講演会等のお知らせ

【福岡大学 国際火山噴火史情報研究所】

第2回公開シンポジウム

「研究支援と学術情報の社会還元を目的としたNPO法人」

日 時：2012年12月16日(日)9:00~16:00

場 所：福岡大学七隈キャンパス18号館・1823教室

主 催：福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所

共 催：鹿児島大学地域防災教育研究センター・NPO法人桜島ミュージアム

「あいさつ・趣旨説明」(座長：小林哲夫 9:00~)

1. 奥野 充 (福岡大)：あいさつ
2. 鳥井真之 (熊本学園大)・福島大輔 (桜島ミュージアム)・藤木利之 (福岡大)：  
「研究支援と学術情報の社会還元を目的としたNPO法人」の趣旨説明  
「大学発NPOの可能性」(座長：大野希一 9:30~)
3. 小林哲夫 (鹿児島大)：鹿児島大学地域防災教育研究センター設立の経緯と今後の展望
4. 松田博貴 (熊本大)：学術研究機関と一般社会の架け橋~蓄積された「知」をいかに共有・活用するか~
5. 深見 聡 (長崎大)：NPO/大学の立場を経験して考える二者協働の可能性

「大学発NPOへのニーズ①」

(座長：鳥井真之 11:00~)

6. 横田修一郎 (元島根大)：自然災害と防災に関するNPOのニーズ(仮)
7. 新堀賢志 (特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構環境・防災研究所)：  
社会の中でのNPO法人の役割~防災の視点から~(仮)  
12:00~13:00 休憩  
「大学発NPOへのニーズ②」  
(座長：福島大輔 13:00~)
8. 長谷義隆 (御所浦白亜紀資料館)：博物館から期待するNPO活動(仮)
9. 大野希一 (島原半島ジオパーク事務局)：ジオパークから期待するNPO活動(仮)

「大学発NPOへのニーズ③」

(座長：藤木利之 14:00~)

10. 平 瑞樹 (鹿児島大)：地理空間情報を用いたGISの活用と地域連携の取り組み
11. 鶴田直之 (福岡大)：国際火山噴火史情報が社会貢献可能なビッグデータになるための条件とNPO活動
12. 総合討論(座長：奥野 充 15:00~)  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月4日送信しました)

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム】

「スプリング・サイエンスキャンプ2013」参加者募集

開 催 日：2013年3月23日~28日の期間中の2泊3日~3泊4日

対 象：高等学校, 中等教育学校後期課程または高等専門学校(1~3学年)

会 場：大学, 民間企業等(12会場)

定 員：受け入れ会場ごとに8~20名(計163名)

参 加 費：2000円(食費の一部に充当。自宅と会場間の往復交通費は自己負担)

応募締切：2013年1月22日(火)必着

主 催：独立行政法人 科学技術振興機構

共 催：受入実施機関

応募方法：Webより募集要項・参加申込書入手し、必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/>

スマートフォンサイト：

<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/sp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局

(公財)日本科学技術振興財団 振興事業部内

TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014

E-mail：camp@jsf.or.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月12日送信しました)

【産業技術総合研究所 地質調査総合センター】

第20回シンポジウム

「地質学は火山噴火の推移予測にどう貢献するか」のお知らせ

・日 時：2013年1月22日(火)13:15~18:00

・会 場：秋葉原ダイビル コンベンションホール

・参加費：無料

・定 員：150名

プログラム等、詳しくは下記URLをご覧ください。

<http://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo20/index.html>

(なお、本講演会は本シンポジウムは、CPDの加対象となっており、詳しくはHPをご覧ください。)  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月19日送信しました)

#### 【第57回粘土科学討論会】

主 催：日本粘土学会

共 催：資源・素材学会、資源地質学会、ゼオライト学会、地盤工学会、日本化学会、日本火山学会、日本鉱物科学会、日本セラミックス協会、日本セラミックス協会資源・環境関連材料部会、日本第四紀学会、日本地学教育学会、日本地球化学会、日本地質学会、日本土壌肥料学会、日本熱測定学会、日本ペトロロジー学会、農業農村工学会(順不同、予定)

会 期：2013年9月4日(水)～6日(金)

会 場：高知市文化プラザかるぽーと

詳細はHPをごらんください。

主要日程：

参加・講演の申込期間 6月3日(月)～14日(金)

講演要旨送付締切 7月12日(金)

参加登録料(要旨集代込)・懇親会費・見学会費

の払込期間 6月3日(月)～7月12日(金)

討論会・見学会 9月4日(水)～6日(金)

問合せ先：〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1

高知大学 理学部 地球科学教室 中川昌治

Tel：088-844-8329, Fax：088-844-8356

E-mail：mnakagaw@kochi-u.ac.jp

<http://www.cssj2.org/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月12日送信しました)

#### 【大規模地震・火山噴火リスク対策国際シンポジウム】

第1回アジア太平洋地域大規模地震・火山噴火リスク対策国際シンポジウム

ーアジア太平洋地域の地震火山災害の現状と将来展望ー

日 付：2013年3月11日(月)9時～18時

場 所：産業技術総合研究所 共用講堂

主 催：G-EVER コンソーシアム、産業技術総合研究所 地質調査総合センター

事務局：産総研 G-EVER 推進チーム

([g-ever-ml@aist.go.jp](mailto:g-ever-ml@aist.go.jp))

入場料：無料(地震、火山防災にご関心のある方はどなたでもご参加できます。講演は英語で行われます。)

事前参加登録：産総研 G-EVER 推進チーム ([\[ml@aist.go.jp\]\(mailto:ml@aist.go.jp\)\)まで、お名前とご所属を明記の上、メールでご連絡下さい\(事前予約無しの日参加も可能です\)。](mailto:g-ever-</a></p>
</div>
<div data-bbox=)

詳細は以下をご覧ください。

<http://g-ever.org/ja/symposium/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月12日送信しました)

#### ○ IAVCEI2013 大会関連のお知らせ

【IAVCEI2013 大会に併せたワークショップや会合について】

IAVCEI2013 大会に併せたワークショップや会合の準備に関係している方は、IAVCEI2013 事務局 ([info@iavcei2013.com](mailto:info@iavcei2013.com)) に早めにご相談いただくようお願い致します。

講演時間帯以外には会期中の会場を使用した会合は可能です。

会期直前直後は準備撤収のため IAVCEI 会場は他の会合に使用出来ません。

会期前後のワークショップや会合の会場手配等は主催者独自でお願いしますが、事務局では、会場の情報の提供やHP掲載等のお手伝いができます。

会場の確保は早めに行う事が必要ですので、ご注意ください。

IAVCEI2013 実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月26日送信しました)

#### 【IAVCEI 2013 鹿児島講演申込メ切(1月末!)】

日本火山学会員の皆様

今年7月に鹿児島市で開催される IAVCEI 2013 学術総会の講演申し込みのメ切が今月末に迫っています。この会議には世界中から1000人を越える火山研究者が参加すると予想されます。この機会に、是非、我々の研究成果を発信して下さい。

申込は以下の IAVCEI 2013 のホームページから abstract submission に入って on-line で行います。

<http://www.iavcei2013.com/>

・講演要旨のタイトルは英文字200字まで、本文は同じく3000字(特殊文字コードを含む)までです。

・セッションの種類と内容は同じホームページの scientific program をご覧ください。

・投稿は1発表者が最大2件までです。1申込につき4000円の投稿料(クレジット払い)が発生します。

・入校した原稿はメ切まで修正が可能です。

・メ切は1月31日お昼です。



どうかメ切までに忘れずお申し込み下さい。

—— IAVCEI 2013 実行委員会学術部会  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました)

**【IAVCEI 2013 鹿児島講演申込メ切 (1月末!)**

日本火山学会員の皆様

メ切まで後10日を切りました。日本人のコンピナーが主催しているセッションも数多くあります。

積極的な投稿をお願いします。

[学生アルバイト募集]

IAVCEI 2013 では、会議運営に携わっていただく学生アルバイトを広く募集いたします。詳細は決まり次第、公開いたします。学生の皆様の多数の講演発表とあわせて、運営への積極的なご参加を歓迎いたします。

投稿は以下の IAVCEI 2013 のホームページから abstract submission に入って on-line で行っていただきます。

<http://www.iavcei2013.com/>

- ・講演要旨のタイトルは英文字 200 字まで、本文は同じく 3000 字 (特殊文字コードを含む) までです。
- ・セッションの種類と内容は同じホームページの scientific program をご覧下さい。
- ・投稿は 1 発表者が最大 2 件までです。1 申込につき 4000 円の投稿料 (クレジット払い) が発生します。
- ・入稿原稿はメ切まで on-line で修正が可能です。
- ・メ切は 1 月 31 日お昼です。

—— IAVCEI 2013 実行委員会学術部会  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月23日送信しました)

**○その他のお知らせ**

**【「火山」57 巻 4 号 目次】**

「火山」57 巻 4 号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

**1. 論説「安山岩質降下軽石と溶岩流の結晶破砕度  
—浅間火山と桜島火山の噴出物の場合—」**

著者：安井真也

マグマ噴出時の火口近傍での諸現象の理解を目指す“プロキシマル火山地質学”において着目している破片状結晶の破砕度を測定した結果 (1000 個以上の破片状斜長石)、降下軽石や溶岩流といった噴出形態の違いや、同じ噴火でも溶岩の噴出時期の違いにより破砕度が異なった。破砕したマグマの噴出・急冷時に細かい結晶片が生産される可能性など、結晶の

破砕時期や場について論じた。

**2. 論説「北海道奥尻島、勝淵山火山から噴出したガラス質流紋岩溶岩の産状と水和」**

著者：吉村洋平・鹿野和彦・石山大三

厚さ 100 m にも及ぶガラス質流紋岩溶岩が勝淵山火口から流下してカルデラ湖に流入し、ほぼ全体が水和してパーライト化している。この論文では、溶岩の産状と水の存在状態などについて記載するとともに、これに理論的考察を加えることで、溶岩が水に接してガラス転移温度 (700°C) から 400°C まで冷却する間に、外部で発生した水蒸気が冷却割れ目に沿って内部に浸透することでガラスが水和し始め、水和によって生じた応力による破断が進行することで累進的に水和が進行したとするパーライト形成モデルを提案した。

**3. 論説「大雪火山群、御鉢平カルデラ形成期における珪長質マグマ溜まりの進化過程」**

著者：佐藤鋭一・和田恵治

大雪火山、御鉢平カルデラから噴出した降下軽石を伴う火砕流堆積物について鉱物化学組成を詳細に解析し、噴火に至るまでの珪長質マグマ溜まりの進化過程を明らかにしました。珪長質マグマ溜まりへの苦鉄質マグマの注入、蓄積、混合、噴火の様子について時間軸を考慮して詳しく議論することができました。

**4. 論説「文献史料に基づく江戸期における霧島火山新燃岳の噴火活動」**

著者：及川輝樹・筒井正明・大學康宏・伊藤順一

信頼性の高い歴史資料を基に、享保噴火の噴火推移を明らかにしました。従来と著しく異なる結果となりました。また、2011 年噴火との類似性や相違点や、過去の活動から考えられる大規模な噴火に至る過程 (噴火シナリオ) についても議論しております。

**5. 寄書「一般用デジタルカメラを利用した簡易 SO<sub>2</sub>カメラの製作」**

著者：橋本武志・寺田暁彦・江尻 省・中村卓司・阿保 真

一般用のデジタルカメラを利用して比較的低コストの SO<sub>2</sub>カメラを製作しました。

誰にでも容易に製作でき、火山噴気に含まれる SO<sub>2</sub>を簡便に可視化することができます。定量性にはまだ問題点がありますが、レンズの選択によっては、さらに低コストの構成も実現可能で、基礎研究以外への応用可能性も秘めています。

**6. 寄書「Seismic Velocity Structure of the Crust Beneath the Aira Calderain Southern Kyushu by Tomography of**

## Travel Times of Local Earthquake Data」

(走時データのトモグラフィーによる始良カルデラの地殻速度構造)

著者：Paul Karson Alanis, Hiroki Miyamachi, Hiroshi Yakiwara, Kazuhiko Goto, Reiji Kobayashi, Takeshi Tameguri and Masato Iguchi

活発な噴火活動を継続する桜島へのマグマの供給源である始良カルデラ下の地殻深部構造の知見を得るため、地震波走時データのトモグラフィーにより推定した。この結果に基づき、地殻深部のマグマ溜まりとその供給経路の可能性について論じた。

## 7. 解説・紹介「草津白根火山の巡検案内書」

著者：上木賢太・寺田暁彦

草津白根火山の巡検案内書です。

活火山である草津白根火山を山麓に住む人々の暮らしも含めた幅広い視野で捉えることを目的に、火山活動史や地質に加えて、現在の防災・観測体制、温泉活動や草津市街地での温泉利用も詳しく紹介しています。

=====  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月18日送信しました)